

二〇二二年度

適性検査型入学試験Ⅰ

注意

- 1 問題は **1** のみで、**6ページ**にわたって印刷してあります。
- 2 試験時間は**四十五分**で、終わりは**午前九時四十五分**です。
- 3 声を出して読んではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 **受験番号と氏名**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

受験 番号	
氏名	

中村中学校

問題は次のページからです。

1 次の文章1、文章2 を読んで、あとの問題に答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

文章1

キャラは空気が決めるのです。「いじられキャラ」とか「毒舌キャラ」とかなんとなく割り振られていく。だから、キャラはその人自身の特徴をあらわしてもいるけれど、一〇〇パーセント一致もしないという、ふしぎな記号です。キャラ決めには「キャラはかぶつてはいけない」「急なキヤラチェンジは危険」だとか細かいルールがいくつもありますから、そうした規則ゆえに、その人の性格と離れていくこともあります。本来の性格にふさわしくないキャラを割り振られた人は、しばしば「キャラ疲れ」を起こすといえます。

キャラ文化がこれだけ普及しているのは、もちろんメリットがあるからです。キャラがわかっているとコミュニケーションがしやすく絡みやすい、しかも、お互いのキャラをいじりあっているだけで、コミュニケーションを延々と続けられます。つまり、キャラはコミュニケーションツールであると同時に、コミュカの産物でもあるんですね。最近「日常系」というジャンルの漫画があります。有名

なのは『けいおん!』です。高校の軽音楽部に所属する女の子たちが、お互いのキャラいじりを延々と続けるだけの日常が描かれています。こうした空間はまったりとして非常に居心地がいいものですが、現実には不本意なキャラを決定してしまった場合は「キャラ疲れ」ということが起きるかもしれません。

「キャラ」に関連した大きな問題もあります。スクールカーストです。経験したことがある人もない人もいるかと思いますが、スクールカーストとは教室内身分制のこと。昔から学校のクラスはいくつかの仲良しグループに分かれるものでしたが、いまはそれが上位グループから下位グループまで序列化される現象が起きています。カースト間の身分差は、一年間は固定され、カースト内の関係は流動的です。

なぜスクールカーストが便利かというと、上意下達の仕組みを運営しやすいからでしょう。カースト上位の生徒が発言すれば、それは逆らえない空気を生み出して、クラスの決定事項になる。何を決定しても、誰からも異論は出ません。それが決まりだからです。逆にカースト下位の人は自分から発言を控えます。これはいわば「プチ全体主義」です。明文化されたルールもなく独裁者もない、しかしみんな自分の意図を抑え込んで、この曖昧な秩序に従わ

ざるをえない。この危険な状態をもたらしたのも、コミユ
カ偏重主義であり空気です。
40

実は、スクールカーストを解体するのはわりに簡単です。
カーストの決定は席が隣りだったなど、物理的距離の近さ
がかなり重要なので、解体しようとするなら定期的に班替
えや席替えをすればある程度予防できる。空気なんて、そ
の程度のいい加減なものです。空気は引つ掻き回さない
よどんで、腐っていく傾向がありますから、それを自覚し
た場合は積極的に声を上げて崩していつてください。
45

カースト内で起こるいじめは「いじり」であるとよく言
われています。『りはめより100倍恐ろしい』という小
説を読んだ方はいますか？ これは高校生が携帯で書いた
小説としてたいへん話題になりました。「りはめより」と
いうのはいじ「め」よりいじ「り」は一〇〇倍おそろしい
という意味です。いじりは目に見えません。当事者が「こ
れはいじりだから」と言ってしまうと、学校側も周りの人
も「いじりだったら口をはさむのも野暮なことだ」と手を
出せなくなる。しかし、はつきり言っておきましょう、い
じりはいじめです。芸人はいじられることでお金になりま
すが、みなさんはいじられても嫌な思いをするだけです。
不快ないじりはいじめであると認識することが、間違った
コミユカ偏重を逃れるひとつのきっかけになると思いま
60

す。

階層があつてキャラが生まれる、これは重要なポイント
です。たとえばAKB48が総選挙を行うのは、まさに階層
や身分差をつくるためです。だいたい一クラスの人数を総
選挙によって序列化し、ファンがアイドルのキャラ付けに
参加できるといいうじつに巧みにできた最強のキャラ消費装
置です。キャラは、消費対象やコミユニケーションの関わ
りに役立つぶんには悪い面ばかりではないでしょう。

しかし、キャラにはもうひとつ問題点があります。いつ
たんキャラが決まると降りることができないのです。キャ
ラとはその人の存在意義ですから、キャラを降りるとい
うことは居場所を失うことと同じです。結果的に、じぶんの
キャラを決めこんで降りられなくなると、その人の成長は
止まってしまいます。

（斎藤環「つながることと認められること」

『学ぶということ（続・中学生からの大学講義）1』

筑摩書房 所収）

周囲の人たちとつながるためのペルソナに苦しむ人もいる。

ペルソナとは、外的世界への適応のために個人が身につけた態度のことである。わかりやすく言えば、人間関係を円滑にするための仮面である。

学校の先生なら先生らしいペルソナを身につけ、営業担当者であれば営業の人間らしいペルソナを身につけ、と、仕事上の役割をうまく遂行することができない。社会的役割をきちんと担うためにも、社会的に適応するためにも、安定したペルソナを築くことが必要となる。学生であれば、もつとプライベートな意味での役割、友だちづきあいにおいてこんな役回りを演じているという意味でのペルソナである。

ペルソナの安定しない人物は、行動の予測がつきにくく、相手からすればよくわからない人物、それゆえ信頼しにくい人物、あるいはつき合いづらい人物ということになりやすい。

ただし、ペルソナというのは、自分本来の姿、個性といったものがある程度犠牲にすることで維持されるものであるため、あまりにペルソナに忠実に生き続けていると息が詰まって苦しくなる。

ある学生は、いつも笑顔でおちやらけているため、深刻に悩むことがあり、とてもはしゃぐような気分じゃないときも、みんなに会うと反射的に笑わせるようなことを言っ
てしまい、いつものようにテンションをあげて場の盛り上げ役に徹している。そこまで無理しなくてもいいの
うものの、どうしても無理をしてしまい、それが苦しくなることがあるという。

自分はけっこう無理してサービス精神を發揮し、場の盛り上げ役を引き受けているのに、仲間たちからはお調子者
みたいに見られ、一方、仲間のことなど考えずにテンション下がってる自分を平気で出す人がまじめとみなされ同情
されたりして、何だか損な性格だなと思うという者もいる。

いつも明るく元気に冗談を言っているけれども、ときには悩むこともあり、人に話したくなったりもするのだが、
あるとき友だちに話したら、「何言ってるんだ。お前らしくないな」の一言でかわされてしまい、ほんとうの自分の姿をさらけ出せる友だちがいなことに気づき、とてもさ
みしい気持ちになったという者もいる。

それなら無理して明るく振る舞ったり、はしゃいで盛り上げ役を演じたりするのをやめればいいと思うかもしれない。でも、いったんペルソナが身につくと、それを脱ぎ捨てるのはかなり難しい。なぜなら、周囲の人たちはそのべ

ルソナを通してこちらとかかわっているからだ。

無理してはしゃぐ自分から脱だつしようと思っただけだと、その45
うした行動パターンが自分の中で自動化しているため、結
構深刻な気分ときでも、友だちと会った瞬間しゅんかんにおちや
らけてはしゃぐ自分に切り替わる。そんな習性が染みつい
てしまった自分がある。サービスピ精神でつながるのではな
く、お互いにほんとうに気になることを率直に話せる関係
になりたい。そんな悩みなやを口にする者もいる。50

そうした悩みを聞くにつけ、ユング心理学者河合隼雄かわい はやおの
つぎのような記述を思い出す。「ペルソナの形成に力を入
れすぎ、それとの同一視が強くなると、ペルソナはそのひ
との全人格をおおってしまつて、もはやその硬かたさと強さを
変えることができなくなり、個性的な生き方がむずかしく
なる。いつか、マルセル・マルソーのアントマイムを見た
とき、ある男がいろいろな面をかぶつて喜んでいるうち、
道化どうけの面をかぶると取れなくなつてしまつて困る場面の演
技があつた。面を取ろうと苦労して、身体はもがき苦しむ
60

が、どんなに苦しんでも、ずっと顔のほうは道化の笑い顔
で、この相反するものを表現してみせるところにマルソー
の演技が輝かがやきを見せる。これは、まさに硬化こうかしたペルソ
ナの悲劇を演じているものと感じられたのだつた。」（河合

隼雄『ユング心理学入門』培風館）

65

こうしてみると、周囲にうまく溶け込むためにはペルソ
ナは大事だが、ペルソナを脱ぎ捨てて本来の姿をあらわす
場をもつことも必要であり、自分の出し方を調整するとい
う意味で、適度な柔軟性じゆうなんせいをもつことが大切だとわかる。
ペルソナを外すことができず、ペルソナに同化した生き
方をしていると、ときに窒息ちっそくしそうな息苦しさに襲おそわれる
ことになりかねない。

（榎本博明『「さみしさ」の力 孤独と自立の心理学』

筑摩書房）

〔問題1〕

⑦ 逆らえない空気とありますが、具体的にはどのような空気を指していますか。〔文章1〕の中の言葉を使い、解答らんに合わせて書きなさい。

〔問題2〕

① あまりにペルソナに忠実に生き続けていると息が詰まって苦しくなるとありますが、そうならないために大切なことは何だと筆者は考えていますか。〔文章2〕の中の言葉を使い、解答らんに合うよう四十字程度で答えなさい。

〔問題3〕

次に示すのは、〔文章1〕と〔文章2〕についての、すみえさんときよこさんのやりとりです。このやりとりを読んだ上で、あなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と〔きまり〕にしたがうこと。

すみえ―〔文章1〕、〔文章2〕を読んで、「キャラ」や「ペルソナ」について知ることができましたね。

きよこ―〔文章1〕の「キャラ」と〔文章2〕の「ペルソナ」は、言葉の意味は似ているけれど、成り立ちは異なる部分があると感じました。

すみえ―どちらもコミュニケーションをとる上では必要だと分かりましたが、気をつけなければならない点もあると思います。

きよこ―そうですね。では、すみえさんは学校生活の中でどのようなことを意識したいと思っているか教えてください。

〔条件〕 次の三段落構成にすること。

① 第一段落では、**文章1**の「キャラ」と**文章2**の「ペルソナ」の成り立ちの^{ちが}違いについてまとめる。

② 第二段落では、それらにしばられたまま過ごした場合、学校生活においてどのような問題が起ころと思うか、考えを具体的に書く。

③ 第三段落では、**文章1**と**文章2**の内容をふまえ、これからの学校生活の中で、どのような場面で何を意識しどのような行動をとるか、あなたの考えを書く。

〔きまり〕

- 題名は書きません。
- 最初の行から書き始めます。
- 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。会話を入れる場合は行をかえてはいけません。
- 、や。 や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の文字と同じまずめに書きます。（まずめの下に書いてもかまいません。）
- 。と」が続く場合には、同じまずめに書いてもかまいません。この場合。」で一字と数えます。
- 段落をかえたときの残りのまずめは、字数として数えます。
- 最後の段落の残りのまずめは、字数として数えませんが、

以下白紙です。